



南高 Forever

File006 12.2020

石川 康弘 氏

本校同窓会長
北海道南幌町議会
副議長

10代のうちに 将来の意識を しっかりと持ってほしい。

第六回のゲストは、本校の同窓会長を務めていただいてい石川康弘さんをお願いしました。農業をやりながら、南幌町議会副議長も務められる多忙な中、お時間をいただき、お話を伺いました。滝川市江部乙に生まれた石川さんは、小学校入学の



とき、お父様が新天地を求め南幌町に農地を購入されたことから本町に移り住むこととなりました。高校進学の際には、江別高校や岩見沢農業高校も検討されましたが、中学三年生のときに、お父様が農地の規模を拡大したため、ご両親だけで農作業されるのではとても手が足りそうもなかったことから、農業を手伝いながら学ぶことができる農業科季節定時制の本校を選ばれたそうです。当時の本校は学校農業クラブ技術競技大会で常に優秀な成績を上げていたことで、石川さんも「トラバース測量競技」を極めんと仲間たちと挑戦され、朝六時には登校し、大きな声かけ合いながら卒業するまで明け暮れておられました。一方、意見発表大会では一年生のときから毎年出場しその腕を磨いてこられ、

四年生のとき、当時の副担任の坪先生から「これまでの集大成としてやってみないか」と勧められ、NHK青年の主張に出場されました。

空知地区大会から北海道大会へ駒を進め、北海道大会で最優秀賞を受賞。晴れて全国大会出場を成し遂げられました。

北海道大会とともに発表したそれぞれの地区の代表とは、今も交流が続いておられるそうですが、他の発表者が感動的なエピソードを語っておられる中、石川さんは家業を手伝いながら学ぶことができる本校を選び、お父様とともにこの地を開拓するつもりで「土に組み組む」真摯な気持ちを熱く語ることができたことが最優秀賞につながりました。

お父様の後を継ぎ、農業に取り組もうとする石川さ

んの誇りが高く評価されたことに、ご家族は大いに喜んでくださったそうで、お父様は記念のアルバムを作成され、アルバムにはNHKホールの貴賓室にて大会出場者とともに、現在の天皇陛下の隣に座って懇談する石川さんのお写真も載っていました。



石川さんは学農会（生徒会）活動にも関わり、生徒会活動をどう盛り上げるかと考え、学校祭では体育館での餅つきや校庭での風揚げ大会など、さまざまなアイディアを実現してこられました。

石川さんいわく、同級生に恵まれ、担任の栗田先生、副担任の坪先生には入学から卒業までの四年間ずっとご指導いただいたおかげで、脱落者が出ず、入学した全員が卒業できたのだそうです。おそらく石川さんが学農会を通じて学校を盛り上げようと努力されたこともその要因の一つだったのではないかと思いつながらお話を伺っていました。

高校卒業後は、深川市にある拓殖大学北海道短期大学の二部に進学。夏は農業に勤しみ、冬は学ぶ生活を三年間続けてこられました。その後は農協青年部などで活動されてこられました。

が、四一歳のとき、地域からの支援を受け、町議会議員に立候補し、六期二年目となるそうです。

へ南高生への伝言へ

高校生活は社会へ出る前の準備段階。社会に出るための基礎となる力を蓄えていくだけでなく、将来の夢や自分の目標を見出すための三年間を送り、一〇代のうちに将来の意識をしっかりと持っていて欲しい。

高校時代にいろいろなことに意欲的に挑戦されたことが今の石川さんの土台を形作っているのだなと思いつながらお話を伺っていました。

自分が何に向いているのか考えるためにも、いろいろなことをとにかくやってみることが大事なんだと思います。